



2026年 審判講習会 (新ルール対応勉強会)



2026年 5月 30日

日本ライフル射撃協会

競技運営委員会・審判部会

本講習会の主旨

■ 対象：

- 本部公認審判員

■ 目的：

- 2026年2月22日の審判講習会では、主なルール変更点を抜粋して説明した。当講習会では、その後に競技運営委員会に寄せられた質問事項や、4月の ISSF World Cup グラナダ大会にて共有された情報を整理し、加盟団体へ展開・情報共有の場とする。

■ 講師：

- 栗生由紀 (競技運営委員会・審判部会メンバー)
- 4月の ISSF World Cup グラナダ大会に RTS Jury として出役

参考資料

- 競技規則 (2026年4月1日版)
 - <https://www.riflesports.jp/support/rule/>
- 2025年度 審判講習会の資料 (2026年2月22日実施)
 - <https://www.riflesports.jp/2026/02/10092/>
 - 国内での運用方針 (2026年4月1日より) :
 - 国スポや全日本をはじめとするG1・G2の競技会においては、原則として新ルールを適用
 - G3・G4競技会における具体的な運用については、各大会主催者からの要項や方針を確認
- ISSF
 - ルールブック <https://www.issf-sports.org/rules>
 - その他諸々ガイド <https://www.issf-sports.org/rules/amendments-and-interpretation>

本日のアジェンダ

- 本日は、グラナダ大会期間中に役員間で共有された内容を主にしております
- 重要な点は含まれていますが、新ルール全ては網羅しておりませんのでご了承ください
 - 4章 競技者資格、商業上権利/スポンサーシップ/広告ルール
 - スポンサーマークの数
 - 6章 ゼネラルテクニカルルール
 - 電子機器の持ち込み、ドライファイア
 - PET、誤射
 - 25m ファイナル出頭時刻
 - ファイナル 新フォーマット
 - ライブエイミング装置、コーチ資格の制限
 - 7章 ライフルルール
 - 10m AR (anatomically formed の禁止)
 - 伏射の服装、立射の姿勢
 - ジャケット・ズボン
 - 競技後検査
 - EST競技時間の変更
 - 8章 ピストルルール
 - グリップ、誤射 (25m)
 - 弾速検査、時間の変更
 - 審判時の注意点
 - 射場事故報告書 (IR) の事例紹介

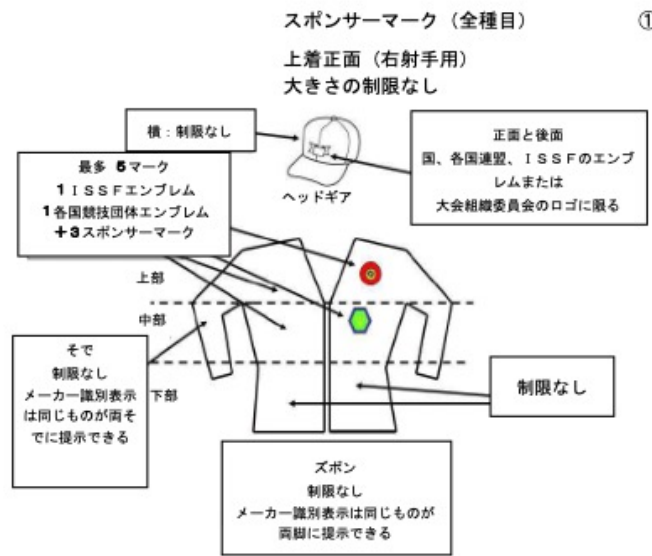
4章 競技者資格、商業上権利/スポンサーシップ/広告ルール

▶ スポンサーマークの数

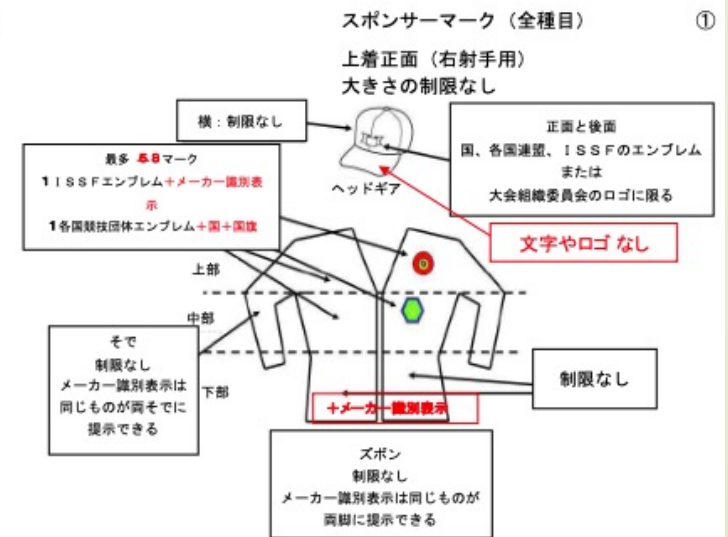
- ▶ ヘッドギア：つばの部分に文字やロゴは不可。側面は制限なし
- ▶ ジャケット：上部・中部に胸にスポンサーマークは3つまでとその他のマークの数制限あり、下部は正面・背面ともに制限なし
- ▶ ズボン：制限なし

4. 競技者資格、商業上権利/スポンサーシップ/広告ルール

旧



新



6章 ゼネラルテクニカルルール

- ▶ 電子機器の持ち込み (6.7.4.4, 6.11.8 f)
 - ▶ 射座への持ち込みは可能となった
 - ▶ ただし、コミュニケーションモードにしてはいけない。機内モードにするだけではダメ。Wifi や Bluetooth もオフになっていること
 - ▶ 6.7.4.4 携帯電話またはその他の手持ち型の通信装置（例えばタブレットなど）、電子装置または腕時計型装置（例えばスマートウォッチ、フィットネストラッカーなど）は、FOP内において、コミュニケーションモードにしてはならない。
 - ▶ 6.11.8 f) FOP内での選手、コーチおよびチーム役員による携帯電話、トランシーバー、ポケットベルまたは同様の装置の使用は禁止される。どのような電子機器もFOPで活動中はコミュニケーションモードにしてはならない。これには携帯電話も含まれる。6.7.4.4参照。

6章 ゼネラルテクニカルルール

- ▶ ドライファイア (6.2.4.1)
 - ▶ 指定場所以外、または指定された方向以外でのドライファイア行為は、ジュリーの多数決により DSQ になる可能性がある
 - ▶ ジュリーは選手がそのような行為を行っていないことを、常に確認すること
 - ▶ 6.2.4.1 空撃ちとは弾が装填されていない銃器の引金機構を解き放つこと、または空撃ち機構が付いているエアガンで空気などを出すことなく撃発動作をすることを意味する。空撃ち、照準練習は射撃線または指定された場所や方向でのみこのルールに従って許可される。
 - ▶ 指定された場所以外または指定された方向と違う方向に向けて空撃ちを行っている選手がいた場合、ジュリーの多数決により、安全を理由にその選手は失格になることがある。
 - ▶ ジュリーは指定された場所以外でのテストショットさせないように、常に確認しなければならない。

6章 ゼネラルテクニカルルール

- ▶ 競技前練習 - PET (6.6.3.2)
 - ▶ ミックスチーム種目のPETの時間について追記（最低30分）
 - ▶ (ミックスチーム種目に限らず) PET では本番と同じルールに基づき、違反と疑わしきものはしっかりと射手・コーチに伝える
 - ▶ そのやりとりは必ず IR フォーム (射場事故報告書) に記録し、審判間で共有しておくこと（本番で再発した場合の議論の根拠となる）
- ▶ 6.6.3.2 競技前練習（PET） 競技前練習は各個人種目の予選または本選の前に行われなければならない。ライフル、ピストル、ムービングターゲットの個人種目については、各選手が自分の競技する射座で1射群あたり40分以上（ラピッドファイアピストルにおいては1射群あたり30分以上、ムービングターゲットにおいては1射手あたり15分以上）の練習がその種目の競技実施の可能な限り前日にできなければならない。この練習時間は公式練習に追加されるものである。ミックス種目が同様の個人種目の後に続いてある場合、競技実施予定に空き時間があるときには、射座を指定しない形式での競技前練習を予定することができる。もしミックス種目のPETがプログラム内で実施できるときは、30分以上が与えられるべきである。

6章 ゼネラルテクニカルルール

- ▶ 誤射 (6.11.6)
 - ▶ 試射 → 別の試射的 ペナルティなし (6.11.6.2)
 - ▶ 試射 → 別の本射的 2点減点 (6.11.6.3)
 - ▶ 本射 → 別の本射的 0点 (本射) + 2点減点 (ペナルティ) (6.11.6.1 および 6.11.6.3)
 - ▶ 別の本射的への本射の誤射について 2点減点が追加となった
- ▶ 6.11.6 誤射 (クロスファイア)
- ▶ 6.11.6.1 本射の誤射は0点として採点されなければならない。
- ▶ 6.11.6.2 選手が試射を別の選手の試射的に誤射した場合、ペナルティは科せられない。
- ▶ 6.11.6.3 選手が試射**または本射**を別の選手の本射的に誤射した場合、撃ち込んだ選手は自分の第1シリーズの得点から2点の減点がペナルティとして科せられなければならない。

6章 ゼネラルテクニカルルール

▶ 出頭時刻 (6.17.1.3)

▶ 25m種目で追加

- ▶ 開始時刻の30分前まで出頭しなかった選手は、最初の2ヒットに対して2ヒットの減点が課される
- ▶ 6.11.6 出頭時刻と開始時刻 ファイナルの開始時刻は、射場長が本射の第一シリーズまたは第一発目の号令をかける時刻とする。選手は、開始時刻の少なくとも30分前にはファイナル射場のプレパレーションエリアに出頭しなければならない。遅刻した選手には、2点もしくは2ヒットの減点が本射第一シリーズまたは第一発目に科せられ、25m種目では2ヒットの減点はその選手の最初の2ヒットに科せられる。その際、選手はファイナルに使用する十分な数の弾薬およびすべての用具、競技用の服装、表彰式用のユニフォームを持参しなければならない。 Juryは全ファイナリストの出頭確認とその氏名、国籍が正しく集計システムとスコアボードに記入されていることを確認しなければならない。
- ▶ Juryは選手が出頭したら、この時間内に可能な限り迅速に用具のチェックを完了させなければならない。ファイナル中の警備体制は、待機場所に置かれている全ての用具および選手の所持品の安全を確保するものとするべきである。

6章 ゼネラルテクニカルルール

- ▶ 10m ミックスチーム ファイナル
 - ▶ 新フォーマット (6.18.3)
 - ▶ ポイント制から得点制へ変更
 - ▶ Qualification は P&S 15分、本射 30発 40分 (10分長くなった)
 - ▶ ファイナルへは上位4チームが進出し、5発 3シリーズの後、3発シングルショットの脱落形式
 - ▶ タイムアウトは 60秒から30秒へ短縮 (6.18.1.7 b)
- ▶ 6.18.3 ファイナル ファイナルでは、まずチームメンバー全員で号令に従って5発を250秒以内に撃つシリーズを3回行い、その後、号令に従って1発を50秒で撃つことを3回行う。この時点で最下位のチームが4位として、ファイナルから脱落する。残ったチームはつづいて、号令に従った1発50秒の射撃を3回行い、その時点で最下位のチームが銅メダルを獲得する。つづく3発の射撃により、金メダルと銀メダルを獲得するチームが決まる。金メダルと銀メダルを獲得したチームのメンバーはそれぞれ24発ずつ撃つことになる。
- ▶ 6.18.1.7 b) ファイナルにおいては、各チーム着席していなければならないコーチの一人が選手に近づき、会話することが許される。コーチまたは選手はラウンドの完了後、アナウンスが行われている間に直ちに手をあげることにより「タイムアウト」を要求できる。「タイムアウト」はファイナルにおいて1回だけ要求することができる。コーチが射座内にいる選手に近づいて話すことができるのは、コーチが選手に近づき始めてから**最大30秒間**となる。

6章 ゼネラルテクニカルルール

- ▶ 50m 三姿勢 ファイナル
 - ▶ 新フォーマット (6.17.3)
 - ▶ CRO号令から 22分間で 膝射本射→伏射試射→伏射本射→立射試射 の順に撃つ。その間のCRO号令は無い。射手は自分の責任において本射・試射の標的切り替えを行う (6.17.3 a)
 - ▶ FOPでの服装の着脱不可 (6.17.3 a)
 - ▶ チェンジオーバー時に後方でコーチと会話するのは可 (6.17.3 k)
 - ▶ 6.17.3 a) ファイナルは、まず膝射と伏射各10発の本射を、この順番に、22分間で撃つ。伏射の本射を撃ち終わった選手は、残った時間の中で、立射への姿勢変換と弾数無制限の試射を撃つことができる。選手は、姿勢変換の際の、本射から試射への切り替えに責任をもつ。**服装の変更は認められないが、ジッパーやその他の締め具の調整することは許容される。**
 - ▶ 選手は各シリーズ250秒の立射5発のシリーズを2回行う。この2回の立射シリーズを終了した時点で下位2名のファイナリストが脱落する。ファイナルは号令による1発50秒の立射が続けられ、1発ごとに最下位の選手が脱落していきながら、残った2名の選手が最終発を撃ち、金メダリストが決まるまで続けられる。最終的にファイナルでは35発撃つことになる。
 - ▶ 6.17.3 k) コーチはファイナルの前と後に選手の用具等を運ぶ手助けができる。ファイナル中、コーチは、伏射スリングの取り外し、射撃ジャケットの肩ストラップの調整など衣服の軽微な調整において選手を支援することはできるが、選手にその他の身体的支援をすることはできない。このときには選手との会話が許されるが、ここに記載されているコーチングや支援はすべてFOP後方のコーチテクニカルエリア内でのみ行われなければならない。言葉によらないコーチングは許される。

6章 ゼネラルテクニカルルール

▶ 25m ラピッドファイアピストル

▶ 射座割 (6.6.6.2 b)

- ▶ 1st Stage と 2nd Stage が同じ日に行われる場合は、2nd Stage のスタートリストは 1st Stage と同じスタートリストを用いる。
- ▶ 6.6.6.2 b) 後半のステージの射群は、前半のステージの得点による順位に従い、低い順位の選手が早い射群になるようにするが、競技が1日で終わる場合は後半のステージの射座割は前半のステージのままでよい。各射群の射座はくじ引きで決められる。

▶ ファイナル (6.17.4)

- ▶ 新フォーマット。ファイナリストは6名から8名へ。ターゲットは3セットから2セットへ。
- ▶ 試射および本射3シリーズまでは2名同時に撃つ。3シリーズ目終了後、下位2選手が脱落。同点の場合は、5位までは本戦の順位で決定 (シュートオフなし)。1位から4位まではシュートオフあり。タイムアウトは無し。
- ▶ シリーズ開始 (グリーンライト点灯) 前に発射した場合、残り4発の得点での採点および1ヒットの減点 (6.17.1.14 j)
- ▶ コーチは装弾エリアでのみ、選手へのコーチングができる。選手の装填の手助けや用具に触れた場合、2ヒットの減点。
- ▶ FOPにおける銃と弾の置き場所が指定されている。詳細はルールブックを参照。

6章 ゼネラルテクニカルルール

- ▶ 25m ピistol女子 ファイナル (6.17.5)
 - ▶ 射座番号は A-B-R1-C-D と E-F-R2-G-H の順番
 - ▶ ATLIは 10分前 (以前は 12分前)
 - ▶ 時間前発射 (6.17.1.14 j)
 - ▶ ATTENTION号令前に発射、申告した場合 (射撃中止&挙手)、再射シリーズから1ヒットの減点
 - ▶ ATTENTION号令前に発射、申告しなかった場合 (射撃続行)、そのシリーズから1ヒットの減点
 - ▶ ATTENTION号令後 (グリーンライト点灯前) に発射した場合、そのシリーズから1ヒットの減点
- ▶ 6.17.1.14 j) 25mピistol-時間前発射：25mラピッドファイアピistol男子のファイナルでファイナリストがシリーズの開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射し、シリーズが始まった場合、そのシリーズは残った4発の得点によって採点されなければならない、さらに1ヒットの減点が科せられる。25mピistol女子のファイナルで、シリーズが始まったあと、ファイナリストが採点開始を告げるグリーンライトが点灯する前に弾を発射した場合、その発射弾はミスと採点されかつそのシリーズの得点から1ヒットの減点が科せられなければならない。シリーズは“ATTENTION (アテンション)”の号令により始まるものとする。もしシリーズ開始前に弾を発射した場合、その弾は本射として数えられず、その後の再射または完射のシリーズの得点から1ヒット減点されなければならない。暴発を起こした選手はシリーズを続けてはならず、8.8.2.3に従って行動しなければならない。この手順に従わずそのままシリーズを続行した場合、得点はそのシリーズで採点されたものが採用される。

6章 ゼネラルテクニカルルール

▶ ライブエイミング装置 (6.7.4.5)

- ▶ 新ルール。10m/50m ファイナルが対象。テレビ放映や動画配信等がある場合は、必須となる
- ▶ 6.7.4.5 TV放送のある公式ISSFイベントや選手権大会では、10mおよび50mのライフルおよびピストル種目のファイナリストは自身の銃器にライブエイミング装置を装着しなければならない。装置の装着はファイナルに先立ってISSF RTS役員およびスポーツプレゼンテーション技術員および役員の支援と監督により、ファイナル控室で行われる。この装着には十分な時間と手慣れたスタッフおよび役員のサポートの提供がされなければならない。これらの機器はスポーツおよび選手の技術の映像表現およびTV放送に不可欠な要素であり、ISSFイベントにおけるこのサービスの提供を確実にするためにあらゆる措置を施さなければならない。



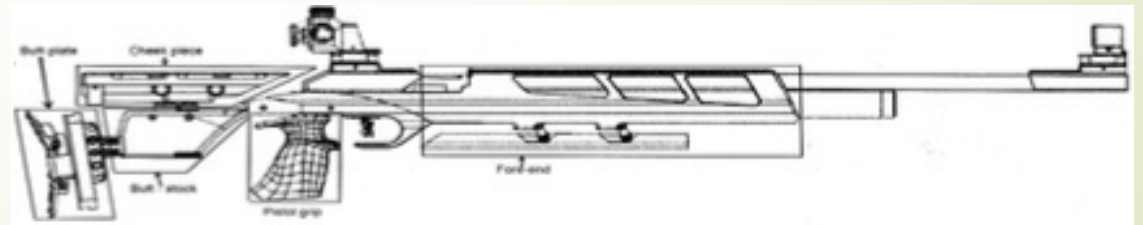
▶ コーチ資格の制限 (6.12.5.2)

- ▶ 新ルール： Team official として選手団に帯同し、PET・予選・本戦のFOP およびファイナル会場のコーチ席に入れるのは、ISSF Coach licence “A” か “B” 保持者のみ
- ▶ 6.12.5.2 2026年のISSF世界選手権大会から、有効な「A」または「B」のISSFコーチライセンスを保有し、チーム役員として登録されているコーチのみが、PET、予選、本選中にFOPに立ち入ることができ、ファイナルにおいて、ファイナル射場のコーチ席に着くことが許される。

7章 ライフルルール

▶ 10m エアライフル (7.4.2.1)

- ▶ Anatomically formed (解剖学的形状、人体の形状に基づいて作られた、の意) の詳細説明が追加された。
- ▶ 7.4.2.1 e) フォアエンド：選手が銃を支える手が触れる銃身下のストック前方部分のことである。
～ 略 ～ グリップ力を増すような物質を付けることはできないし、手形等を作ることもできない。
- ▶ 7.4.2.1 f) ピistolグリップ：ピistolグリップは銃軸線を含む垂直面から側方に60mmを越えて張り出してはならない。また、最下点は銃身軸線から160mmを超えてはならない。グリップ力を増すような物質を付けることはできないし、手形等を作ることもできない。
- ▶ 「解剖学的形状」とは、「特定の選手の手にフィットするように、メーカーが供給するオリジナルのグリップに素材を追加または削除すること」と解釈できる。グリップは下図のように滑らかであるべきであり、個々の指や親指の形状に合わせて成形されるべきではない。3Dプリンターで製造されたものや格子構造のものは、選手の手に個別にフィットするように成形されていない限り許される。



7章 ライフルルール

▶ 伏射の服装

▶ 射撃ジャケットの袖 (7.6.1.2 l)

- ▶ ジャケットの袖はライフルの下方のフォアエンドに触れても良いが、グローブとライフルの間に挟まれてはいけない。また、それによって追加のサポートがないことが前提。
- ▶ 7.6.1.2 l) ライフルを支えている腕のジャケットの袖は、**グローブとライフルの間に挟まったり、追加のサポートを与えない限り、フォアエンドの下面に触れることが許される。**

▶ 射撃ズボン (7.5.5.4)

- ▶ 伏射競技および三姿勢競技の伏射ステージにおいて、射撃ズボンの着用が可能となった
- ▶ 7.5.5.4 ライフルの男女の伏射種目および三姿勢種目の伏射ステージでの**射撃ズボンの着用は許される。**

7章 ライフルルール

判断に迷う場合は写真を撮って、審判メンバー間で確認することを推奨。

- ▶ 立射の姿勢 (7.6.1.3, 7.5.5.1)
 - ▶ ライフルは上部胸部分および左の肩に触れても良い
 - ▶ 7.6.1.3 b) ライフルは両手、肩または肩の近くの上腕部および右肩に隣接する胸の部分で保持されなければならない。**ライフルが胸の上部でジャケットに触れることは許される。**
 - ▶ 手・腕・肩への接触
 - ▶ 7.6.1.3 d) 右手は左手や左腕に触れることはできない。左手は左肩やジャケットの左側に触れることはできない。両手、および指はジャケットの左側に触れてはならない。「ジャケットの左側」とは、胸の中央を通る仮定の垂直線の左側の領域である。
 - ▶ ライフル・ブラインダーと顔との間に、目視で確認できる隙間が必要
 - ▶ 7.6.1.3 f) ライフルは、7.6.1.3.b と d で許された範囲を除き、その他の体の部位または物体に触れたり、依託したりしてはならない。**ライフルと選手の顔とリアサイト（目かくし板が取り付けられている場合には目かくし板とも）の間は明白に見える隙間がなければならない。**この隙間の幅は、本射中に競技役員またはジュリーがその幅を測定しようとして選手の邪魔をしないように、意図的に指定していないが、この隙間は、リアサイトやブラインダーを含むライフルがどの点や物体とも接触していないと疑いなく確認できるようでなければならない。
 - ▶ ズボンのベルト
 - ▶ 7.5.5.1 d) ウエストベルト-ズボンを支えるために幅40mm以下、厚さ3mm以内の通常のベルトまたは伸縮するサスペンダーを使用してよい。立射姿勢でベルトを着用する場合は**バックルや締め具を左腕や左肘の支えとして使用してはならない。**ベルトは左腕や左肘の下にあたる部分で**二重、三重等にしてはならない。**

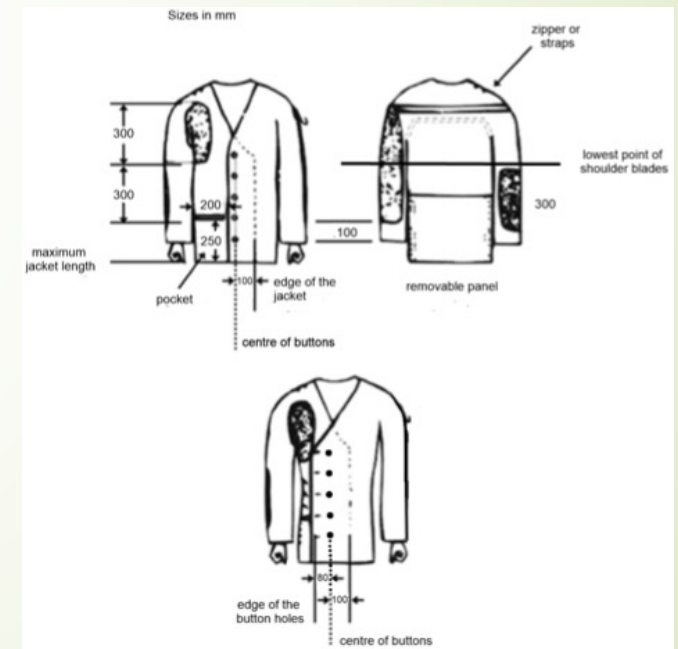
7章 ライフルルール

■ ジャケットの前あわせ (7.5.4.2)

- オーバーラップは 80mm 以上重ね合わせられることが必要。ボタンは5個まで。
- ズボン着用状態でジャケットを着て計測。計測時に、猫背になっていないことに注意。
- 7.5.4.2 留め具-ジャケットの前合わせは、ボタンかジッパーのような調節のきかない留め具で留めなければならない。～略～これを判定するために、ジャケットは、ボタン等を留めた状態よりも、少なくとも80mm以上重ね合わせることができなければならないが、この測定はボタンの中心からボタンホールの外側までの長さを測らなければならない。～略～ジャケットの前合わせのボタンは最大5個までが許される。

■ ジャケットの固さ測定 (7.5.4.10)

- 3mm のたわみ測定時間
 - 肩甲骨の最下部より上 : 30秒以内
 - 肩甲骨の最下部より下 および 袖 : 15秒以内
- 7.5.4.10 ジャケットの固さ-選手がジャケットを着用しているとき、腕の部分を除く肩甲骨の最下部より上の部分全体は、以下の条件に従って、ジャケットの残りの部分よりも固くてもよい。上部の部分(一重の厚さで)は、公認の固さ測定装置で測定して、30秒以内に3mmのたわみを測定できるという固さ検査に合格しなければならない。肩甲骨の最下部より下のジャケット部分は、同様の検査に、15秒以内で合格しなければならない。



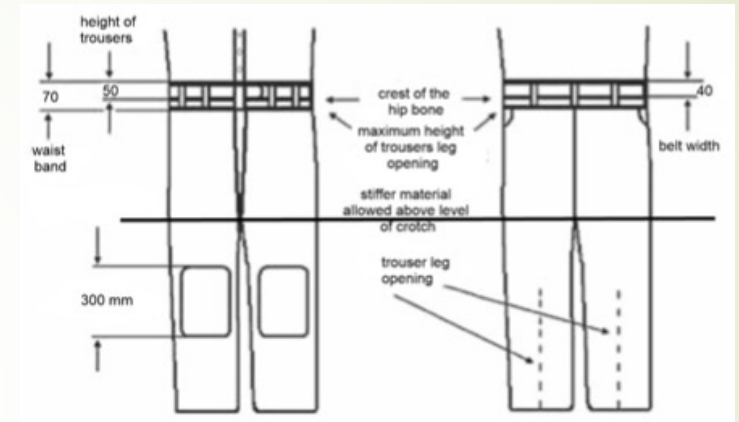
7章 ライフルルール

ズボンの固さ測定 (7.5.5.6)

3mm のたわみ測定時間

- 股下より上 : 30秒以内
- 股下より下 : 15秒以内

- 7.5.5.6 射撃ズボンの固さ—ズボンは、薄い裏地を含む複数の層の素材で作ることができるが、合計の厚さが一重で2.5mmを超えてはならない。ズボンの股下より上の部分は、下の部分より固くすることができるが、以下の条件を満たしている必要がある。ズボンの股下より上の部分は公認の固さ測定装置で測定して、30秒以内に3mmのたわみを測定できるという固さ検査に合格しなければならない。
- 股下より下のズボンの両脚の部分は、同様の検査に、15秒以内で合格しなければならない。



7章 ライフルルール

- 固さ測定における現場での注意点（グラナダ大会での運用）
 - 事前検査にてNGになった場合は、再測定をせず、修理指示をするのみに留める
 - 対応策に関する助言はしない（責任の所在）
 - 固さ測定対応のために生地を叩く・揉む・切り込みを入れるなどの対応はOK
 - 固さ測定をパスさせる目的で一時的に形状調整をするような加熱処理（ヘアドライヤーなど）は禁止



7章 ライフルルール

- ▶ ライフルの競技後検査（グラナダ大会での運用）
 - ▶ ファイナル出場選手は全員、本戦終了後の競技後検査を受けさせる
 - ▶ EC Juryはそのことを念頭に、競技後検査の受検者を選出する
 - ▶ 検査項目：ライフルの重さ・サイズ、ジャケットおよびズボンの固さ
- ▶ ファイナル開始前の検査では、ジャケットの前あわせのみ実施
 - ▶ もし通らなかった場合は、警告のみ行う

7章 ライフルルール

- ▶ 電子標的における競技時間の変更 (7.7.4 の表)
 - ▶ 10m ミックスチーム：40分 (以前は30分)
 - ▶ 50m 三姿勢：屋内1時間30分、屋外1時間45分
 - ▶ 300m 伏射：1時間 (以前は50分)

※7.7.4 ライフル種目本選一覧表(ISSF)

種目	男/女	弾数	本射撃ち込み数 (紙標的)		試射の数 (紙標的)	競技時間： 監的または標的キャ リア (紙標的)	競技時間： 電子標的
			G1, G2	G3, G4			
10mエアライフル	男 女	60	1	国内適用 規定参照	4	1時間30分	1時間15分
10mエアライフル ミックス	男女	2× 30	1		4	1時間	40分
50mライフル3姿勢	男 女	60	1		各姿勢 4	2時間	屋外： 1時間45分 屋内： 1時間30分
50mライフル伏射	男 女	60	1		4	1時間	50分
300mライフル3姿勢	男 女	60	10		各姿勢 1	2時間15分	1時間45分
300mライフル伏射	男 女	60	10		1	1時間15分	1時間
300mスタンダード ライフル3姿勢	オープン	60	10		各姿勢 1	2時間15分	1時間45分

注1：15分間の準備および試射時間は印刷された競技開始時刻の前に始められなければならない。

注2：表中のG1～G4の表記は、公認競技会の格付規程による。

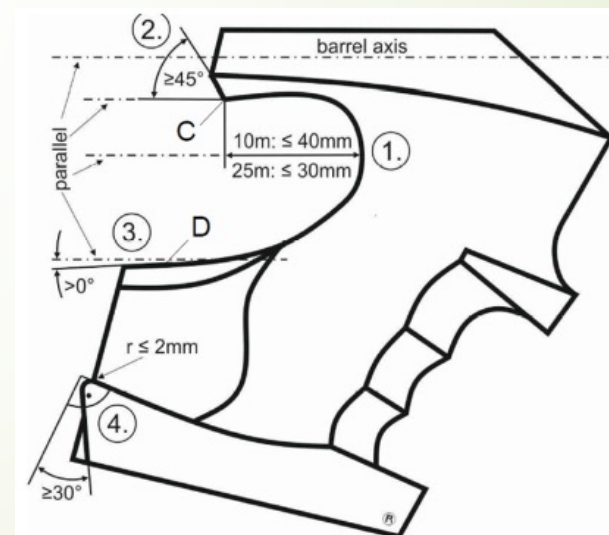
8章 ピストルルール

■ グリップ (8.4.1.1 a)

- 手首がグリップに触れていないことを目視で確認できること。接着剤的なもので手と銃のコンタクトを強化できるものはNG
- 8.4.1.1 a) グリップのみならずピストルのいかなる部分であっても手以外の部分に触れるように拡張、作製することはできない。通常の射撃姿勢をとったとき、手首は明瞭に自由でなければならない。これは、選手の手に何らかの印をつけることなく、目に見える形で確認されなければならない。手による銃の握りを強化するための接着剤や樹脂の使用はどのようなものでも禁止される。チョーク、タルクパウダー、マグネシウムまたは類似の物質の使用は許される。ブレスレット、腕時計、リストバンド、または類似の物をピストルを持つ手や腕に付けることは禁止される。

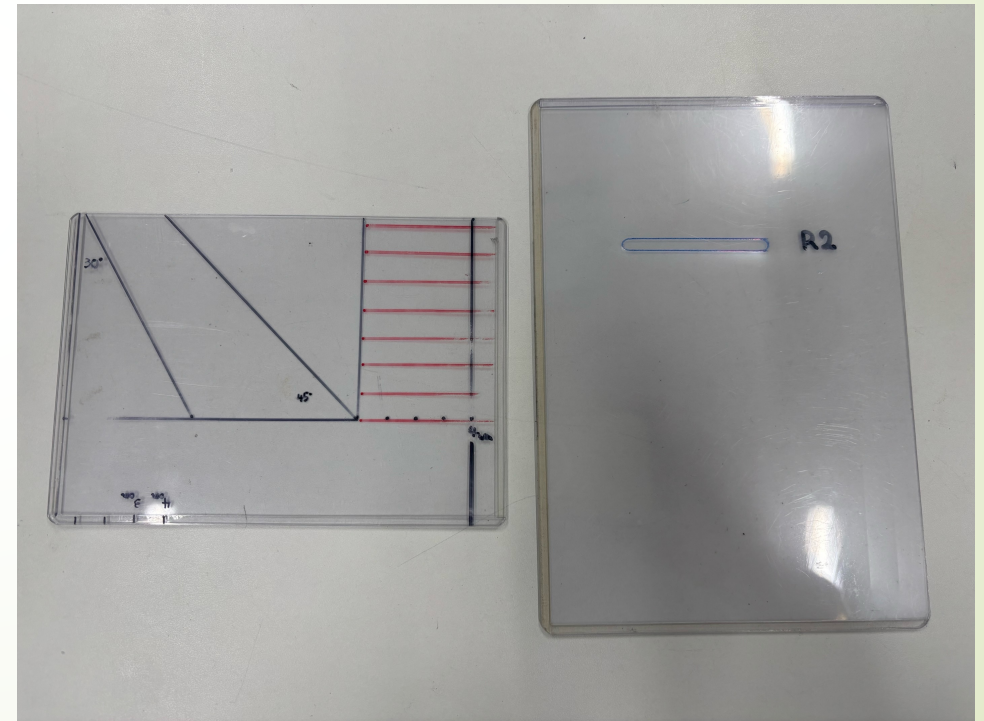
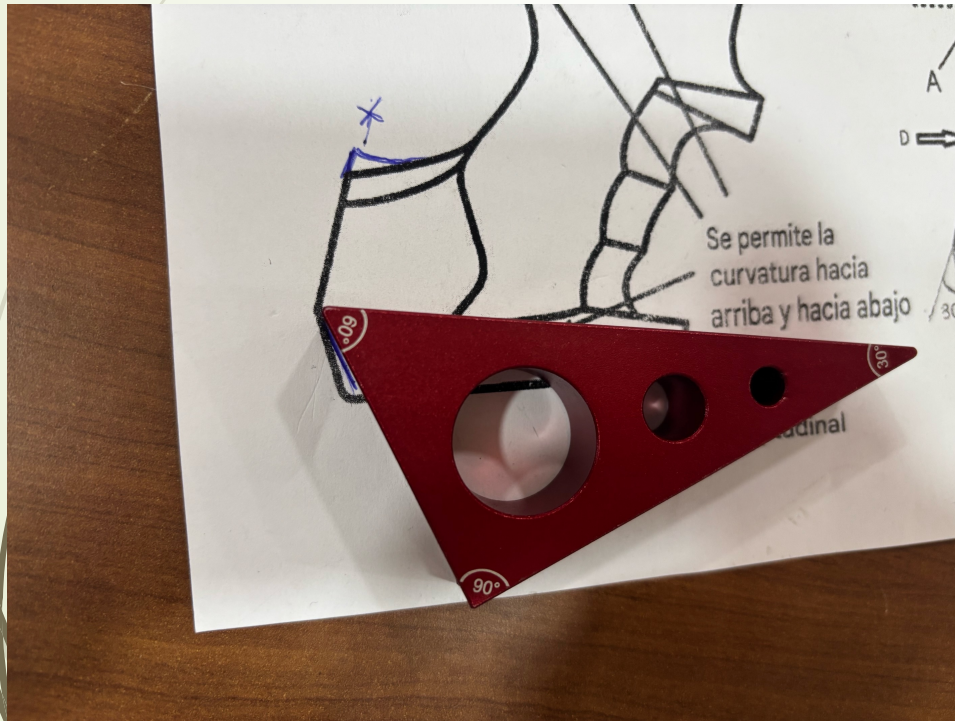
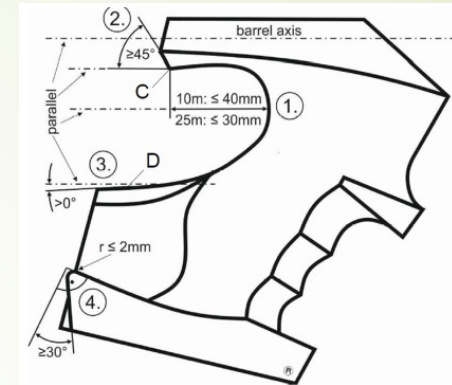
■ 10m エアピストルのグリップ (8.4.1.5、右図参照)

- ① グリップ最深部までの深さは 40mm 以下
- ② グリップ後部は、Cの点から45度以上の角度で上向きに切られていること
- ③ グリップ最深部から銃軸線の下方方向に向かっていること
- ④ ヒールレストの手首側の端は30度以上の角度で切られていること、また、その端は半径2mmまでの丸みが許される



8章 ピストルルール

測定の道具の例



8章 ピストルルール

- ▶ 25mラピッドファイアピストルのファイナル要件：弾速検査 (8.4.4.3)
 - ▶ 新ルール。ファイナルに出場する選手は、本戦終了後20分以内に弾速検査が必要。もし玉の提出がされなかった場合、ファイナル出場は許可されず、DNSで8位となる
 - ▶ 8.4.4.3 ラピッドファイアピストル種目の本選終了後20分以内に、発表された結果に基づきファイナル進出を決めた8名の選手は、ファイナルで使うすべての弾薬を持って速度検査所に集合しなければならない。ファイナル開始前に速度検査に選手自身が現れなかった場合、その選手はファイナルには参加できず、ファイナル順位は8位となり、DNSと記載される。持参した弾薬からサンプルを取り出し、速度検査が実施される。弾薬は選手立ち合いのもと封印され、用具検査役員によってファイナルレポーター場所に運ばれる。
 - ▶ 3発の平均速度が250.0m/秒を下回った場合再検査、6発の平均層度が250.0m/秒を下回った場合は失格 (8.4.4.2) (変更なし)
- ▶ 25m 試射的への誤射 (8.8.2.4) (変更なし)
 - ▶ 試射シリーズにおける誤射はペナルティなし。本射シリーズでの誤射については6.11.6.3が適用(2点減点)
 - ▶ 8.8.2.4 選手が試射を別の選手の試射的に撃ち込んだ場合、撃ち込んだ選手の再射は許されないが、ペナルティは科されない。撃ち込まれた弾痕が誰のものか明確に迅速に判明しない場合、撃ち込まれた選手は試射の再射をする権利を持つ。

8章 ピistolルール

- ▶ 25m 準備時間 (8.7.6.1 b)
 - ▶ 10分前に CRO がコールする (以前は 13分前)
- ▶ 25m ピistol女子 : 時間の変更
 - ▶ 精密ステージ : 240秒 (以前は 300秒) (8.7.6.4)
 - ▶ 完射の場合 : 1発につき 48秒 (以前は 60秒) (8.8.1 d, 8.9.4.6 b)
- ▶ スタンダードピistol (8.7.6.5) (変更なし)
 - ▶ 150秒5発 x 4シリーズ, 20秒5発 x 4シリーズ, 10秒5発 x 4シリーズ, 合計 60発 (2 malfunctions まで)
 - ▶ 例外的に 2回に分けて行われる場合 (上記を2シリーズずつ)、それぞれの回において malfunction は1回まで

審判時の注意点

■ 競技前練習

- 本番前にじっくりと確認ができる最後の機会！
- 選手との会話の際は、参照ルール番号を提示し、根拠を持って説明する
- 判断に迷う場合は、写真を取って確認する（他の審判員とも共有できる）
- 競技前練習の時に発生した選手とのやりとりは、射場事故報告書 (IR) に記録しておく。本選でペナルティ・減点の対象となった場合、速やかに IR を RTS チームに連携し、スコアの修正対応が必要になる（次ページ以降に実際の IR を紹介）

■ 責任範囲の明確化

- 他のジュリーが下した判断に関する選手団からの口頭での問い合わせ（プロテスト以外）は、勝手に受けないこと。そのジュリーもしくは同じチームのジュリーに問い合わせするよう伝える（例：RTSジュリーが EC ジュリーの判断に関して、選手へ見解を出すことはしない）
- トラブルに発展する場合は、速やかに TD に相談する

■ プロテスト

- 書面でのプロテスト (スコア以外)：20分以内
- スコアのプロテスト：スコアボードに掲示されてから10分以内

実際の IR (射場事故報告書)

ISSF		RANGE INCIDENT REPORT FORM		IR	
Incident Report Serial Number: (A record must be kept in Range Register)					
Date of Incident: 09 04 26			Time of Incident: 16 45		
Event: RFPM		Relay: 6		Firing Point:	
Athlete's Name:				Stage: PET	
Bib Number:		Nationality:		Series:	
Brief Details of Incident: Ready position violation					
Applicable ISSF Rules: 8.7.4					
Penalty imposed: PET					
Signature of Range Officer Initiating Report:		Printed Name:		Time:	
Signature of Competition Jury Member:		Printed Name: GREGORE		Time: 16 48	
Signature of RTS Officer:		Printed Name:		Time:	
Signature of RTS Jury Member:		Printed Name: Lili Helmi		Time: 16:49	
Signature of Ranking Technical Officer:		Printed Name:		Time:	

- 25m RFPM の PET
- レディポジションの違反 (8.7.4)
- PET のため、ピストルジュリーから口頭による注意
- PET のためペナルティは無い。この情報を元に、本選では (修正されているかを) 注意して確認する

実際の IR (射場事故報告書)

ISSF		RANGE INCIDENT REPORT FORM		IR	
Incident Report Serial Number: (A record must be kept in Range Register)		001			
Date of Incident:	8 April	Time of Incident:		1100	
Event:	PET 3PW	Relay:	2	Firing Point:	
Athlete's Name:				Stage:	
Bib Number:		Nationality:		Series:	
Brief Details of Incident:					
Athlete changed shirts on the firing line at the start of PET. Verbal warning given by Jury Member					
Applicable ISSF Rules: 6.20.3.3					
Penalty imposed: N/A					
Signature of Range Officer Initiating Report:		Printed Name:		Time:	
Signature of Competition Jury Member:	<i>[Signature]</i>	Printed Name:	Gary Trisdale	Time:	
Signature of RTS Officer:		Printed Name:		Time:	
Signature of RTS Jury Member:	<i>[Signature]</i>	Printed Name:	Romina Quintenilla	Time:	
Signature of Ranking Technical Officer:		Printed Name:		Time:	

- 50m R3PW の PET
- FOP で選手がシャツの着替えをしていた (6.20.3.3)
- PET のため、ライフルジュリーから口頭による注意
- PET のためペナルティは無い。この情報を元に、本選ではそのようなことがないことを注意して確認する

実際の IR (射場事故報告書)

ISSF		RANGE INCIDENT REPORT FORM		IR	
Incident Report Serial Number: (A record must be kept in Range Register)		007			
Date of Incident:	04/10/2026	Time of Incident:		9:33	
Event:	50MR3PW	Relay:	Qualification	Firing Point:	
Athlete's Name:		Stage:		1	
Bib Number:		Nationality:		Series: Kneeling	
Brief Details of Incident:					
Her inner ware covering over the gloves giving extra thickness					
Applicable ISSF Rules: 7.5-6.1					
Penalty imposed: Warning Card					
Signature of Range Officer Initiating Report:		Printed Name:	A. Cortez	Time:	09:34
Signature of Competition Jury Member:		Printed Name:	Eun Chul Lee	Time:	09:35
Signature of RTS Officer:		Printed Name:		Time:	
Signature of RTS Jury Member:		Printed Name:	Low Lalini	Time:	09:51
Signature of Ranking Technical Officer:		Printed Name:		Time:	

- 50m R3PW の PET
- 選手のインナーがグローブを覆った状態。7.5.6.1 による厚さ違反に該当
- PET のため、ライフルジュリーから口頭による注意
- PET のためペナルティは無い。この情報を元に、本選では (修正されているかを) 注意して確認する



実際の IR (射場事故報告書)

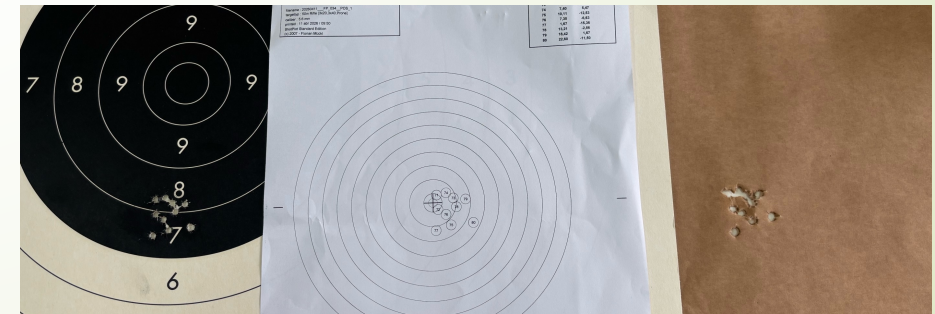
ISSF		RANGE INCIDENT REPORT FORM		IR	
Incident Report Serial Number: (A record must be kept in Range Register)		15			
Date of Incident:	8/4/26	Time of Incident:			
Event:	PET ARM	Relay:	2	Firing Point:	30
Athlete's Name:		Stage:			
Bib Number:		Nationality:		Series:	
Brief Details of Incident:					
F.P. not be stable. Then change FP30 to 7					
Applicable ISSF Rules:					
Penalty imposed:					
Signature of Range Officer Initiating Report:		Printed Name:	Antonio Contreras	Time:	14:54
Signature of Competition Jury Member:		Printed Name:	Eun Chul Lee	Time:	14:54
Signature of RTS Officer:		Printed Name:		Time:	
Signature of RTS Jury Member:		Printed Name:	JUSTINAS TRUNCE	Time:	14:55
Signature of Working Technical Officer:		Printed Name:	BRUNO BOZIC	Time:	14:56

- 10m ARM の PET
- 選手から、床の状態が平行ではないと不満があった
- RO からライフルジュリーに連携し、選手に射座変更を提案した
- IR は RO が起票。IRに基づき、RTSジュリー同席のもと、ESTオフィサー (SIUS) が射座データの修正を実施

実際の IR (射場事故報告書)

ISSF		RANGE INCIDENT REPORT FORM		IR	
Incident Report Serial Number: (A record must be kept in Range Register)		011			
Date of Incident:	11-4-26	Time of Incident:		09:11	
Event:	3PM	Relay:	Elimination	Firing Point:	
Athlete's Name:		Stage:		Light	
Bib Number:		Nationality:	Series:		
Brief Details of Incident:					
EST Athlete protest EST results in sighting.					
changed F.P. 16					
EXTRA TIME 9' protested Sighting Shot #10 scored "7".					
Applicable ISSF Rules: 6.10.5 After the relay, collected backing targets and confirmed the shots matched with system log printout.					
Penalty imposed: 6.10.5 6.10.5 c -2 deduction from 1st match series.					
Signature of Range Officer Initiating Report:	Printed Name:	A. Pozzani	Time:	9:18'	
Signature of Competition Jury Member:	Printed Name:	Eun Chul Lee	Time:	9:18	
Signature of RTS Officer:	Printed Name:	PAULA GUBELALDE	Time:	9:31	
Signature of RTS Jury Member:	Printed Name:	Yuki Aou	Time:	9:31	
Signature of Ranking Technical Officer:	Printed Name:	Bruno Daniel	Time:	9:43	

- 50m R3PM の試射中、選手が撃った7点がおかしいと抗議した (6.10.7)
- RO からライフルジュリーに連携し、6.10.5 に基づき、ライフルジュリーが射座変更を提案し、競技続行
- IR は RO が起票。ライフルジュリーと RTS ジュリーが IR の内容を確認
- 競技終了後、6.10.8 に基づき、プロテストされた試射の点数が正しいことを RTS ジュリーが確認、本選の第1シリーズの得点からマイナス2点の減点を IR に記入 (6.10.7 d)
- IR に基づき、RTS ジュリー同席のもと、EST オフィサー (SIUS) が得点を修正



実際の IR (射場事故報告書)

ISSF		RANGE INCIDENT REPORT FORM		IR	
Incident Report Serial Number: (A record must be kept in Range Register)				1	
Date of Incident:		8 April 2026		Time of Incident: 9:44	
Event: SPW		Relay: 1		Firing Point: [redacted]	
Athlete's Name:		[redacted]		Stage:	
Bib Number:		Nationality:		Series:	
Brief Details of Incident:					
Failed Test Trigger control post competition					
Applicable ISSF Rules: 6.7.9.1.b - 6.12.6.2.c					
Penalty imposed: DSA					
Signature of Range Officer Initiating Report:		Printed Name: RAL BLAZA		Time: 9:43	
Signature of Competition Jury Member:		Printed Name: ESTHER BERROJO		Time: 9:44	
Signature of RTS Officer:		Printed Name: YUKI AOU		Time: 9:54	
Signature of RTS Jury Member:		Printed Name: JUSTINAS TRUNCĖ		Time: 9:56	
Signature of Ranking Technical Officer:		Printed Name:		Time:	

- 25m SPW の競技後検査
- トリガー検査にパスしなかったため、失格となった
- IR は ECO が起票。EC ジュリーの確認後、競技後検査シートと共に RTS チームに連携
- IR に基づき、RTS ジュリー同席のもと、EST オフィサー (SIUS) が得点データを修正

実際の IR (射場事故報告書)

ISSF		RANGE INCIDENT REPORT FORM		IR	
Incident Report Serial Number: (A record must be kept in Range Register)		013			
Date of Incident:	11-4-26	Time of Incident:	11:36		
Event:	3 PM	Relay:	Elimination 2	Firing Point:	
Athlete's Name:		Stage:	Kaefing	Sight	
Bib Number:		Nationality:		Series:	
Brief Details of Incident:					
D.N.S					
Applicable ISSF Rules: 6.14.4.2					
Penalty imposed:					
Signature of Range Officer Initiating Report:		Printed Name:	A. Penizares	Time:	11:38
Signature of Competition Jury Member:		Printed Name:	Eun Chul Lee	Time:	11:38
Signature of RTS Officer:		Printed Name:		Time:	
Signature of RTS Jury Member:		Printed Name:	JUSTINAS TRUNCE	Time:	11:45
Signature of Ranking Technical Officer:		Printed Name:	Daniel Bumer	Time:	11:50

- 50m R3PM の DNS
- IR は RO が起票し、ライフルジュリーが確認
- IR に基づき、RTSジュリー同席のもと、ESTオフィサー (SIUS) が得点データに DNS を挿入

- 
- ▶ ご参加ありがとうございました。
 - ▶ ご不明な点がございましたら、競技運営委員会のメールアドレスまでお願いいたします
 - ▶ Email address: kyogi@riflesports.jp